

医療現場の英語表現 — 「ことばと文化」を探究する

田中 芳文

(地域文化学科)

A Linguistic and Cultural Study of Medspeak

Yoshifumi TANAKA

キーワード：医療語，冠名用語，ブランド名，スラング，マラプロピズム
Medspeak, eponym, brand name, slang, malapropism

1. Prolog

米国の作家 Tess Gerritsen と Jilliane Hoffman の作品にそれぞれ次の場面がある。その邦訳にはいずれも「胃薬」が出てくるが、原文のその部分にはブランド名の *Pepto-Bismol* と *Alka-Seltzer* が使われている。

Too much lunch, shouldn't have eaten all those onions. Maybe **Pepto-Bismol** would do the trick.

-*The Sinner*, p. 8

ランチが多すぎた、あのタマネギをぜんぶ食べるんじゃなかった、胃薬を服⁽⁶⁾めば楽になるかもしれない。

-安原訳, p. 15

And she didn't want to think about Charity's kitchen, or Jarrod's intern, or the snickering Nicknames who would be talking about her in the morning over an **Alka Seltzer** [*sic*].

-*All The Little Pieces*, p. 37

チャリティのキッチンでの出来事も、ジャロッドと実習生のことも、朝になったら胃薬をのみながらフェイスの悪口を言ってにやにやしているであろうあだ名連中のことも考えたくない。

-多田訳, p. 50

いずれも米国では有名な市販薬であるが、それぞれのブランド名が意味する背景文化がある。*Pepto-Bismol* (1901年発売) は下痢止め (antidiarrheal) ・制吐薬 (antinauseant) として使われるもので、液剤が有名だが、現在はカプレット (Caplet) , 咀嚼錠 (chewable tablet) などの剤形もある (Drake and Drake 2012)。*Pepto-Bismol pink* と呼ばれるほど鮮やかなピンク色が米国文化には浸透している (山田 2006, 田中 2017a)。一方、*Alka-Seltzer* (1931年発売) は制酸薬 (antacid) ・鎮痛薬 (analgesic) ・解熱薬 (antipyretic) として使われるもので、咀嚼錠などもあるが、何といたっても水に溶かして飲む発泡錠 (effervescent tablet) が有名である (Cross 2002, Drake and Drake 2012)。ドイツの詩人 Hanz Magnus Enzensberger (1929-) の言葉に “Culture is like dropping an **Alka-Seltzer** into a glass of water – you don't see it, but somehow it does something” もある。¹⁾ このように、両者を単に「胃薬」という共通名詞に置き換えただけではわからない、そのブランド名ならではの周辺の文化的な意味、いわば含意 (connotation) がある。

医療分野に特有な言語表現は Medspeak (医療語) と呼ばれ、略語、ジャーゴン、スラング、新語など幅広い (Segen 1995, Segen 2006)。山田・田中

(2000), 山田・田中 (2006), 山田・田中 (2016) により, 辞書の形で Medspeak とその背景文化に関する調査・研究の成果を公にしたところであるが, 収録すべき項目はまだ数多く残っている。本稿の目的は, 田中 (2017b), 田中 (2017c), 田中 (2018), 田中 (2019a), 田中 (2019b), 田中 (2020a), 田中 (2020b), 田中 (2020c) に引き続き, 小説やノンフィクション作品に出てくるそれらの言語表現を明らかにし, 信頼すべき Medspeak 辞典を継続して編むことにある。

2. 医療スタッフの名称

1) CT technologist

コンピューター断層撮影法 (computed tomography) に関わる様々な業務を行う専門職は *CT technologist* である (*DOT*)。 *CT technician* とも呼ばれる。²⁾ 例文にあるように *CT tech* の略語も使われる。

The patient is transferred to the scanner room, and I follow him there. I wait for the images with the **CT tech**. -*More Letters from the Pit*, p. 127

2) emergency medical dispatcher

救急処置をしながら救急車で病人や負傷者を搬送する *EMT* (emergency medical technician) や *paramedic* と呼ばれる人たちを *ambulance driver* とか *stretcher bearer* と呼ぶのは, 軽蔑的な (derogatory) 言い方になることを指摘した (田中 2020b)。

同じく EMS と呼ばれる緊急医療サービス (emergency medical service) のシステムに携わる人に *emergency medical dispatcher* がある。 *EMD* の略語も使われる。単に *dispatcher* とも呼ばれる (Sanders 2012)。救急要請を受け, 救急車を現場へ派遣する指令係である。³⁾ *telecommunicator* と呼ばれることを望んでいるという (Cowan and Cowan 1998)。逆に, 次の例から, *operator* と呼ばれるのをひどく嫌がるのがわかる。

The next voice you hear will be an **Emergency Medical Dispatcher**. (Not an 'operator'. EMDs hate being called 'operator' for much the same reason paramedics hate being called 'ambulance driver'.
-*Nee Naw*, p. 13

3) ER technician

ER の略語で知られる病院の緊急救命室 (emergency room) で, 登録看護師 (registered nurse) の監督下でケアを行うスタッフは *ER technician* と呼ばれる。^{4), 5)} 例文にあるように *ER tech* の略語も使われる。

Dana got everything arranged for one of the **ER techs** and me to take her to a shower on the second floor. -*Memoirs of a Trauma Junkie*, p. 36

The patient was brought into the triage area where an **ER tech** took her vital signs and documented on her chart pertinent data such as medications, medical and surgical history, and allergies. -*Confessions of a Trauma Junkie*, p. 92

3. 略語

1) BBA

この略語について, Green (1987) は "*n* [*Midwifery*] abbr of **Baby Born in Ambulance** it therefore means giving birth in the ambulance on the way to the hospital." とするが, 正しくは *born before arrival* の略語であると考えられる。Stahl and Kerchelich (2001) は, さらに詳細に "*born before arrival* (of the midwife or doctor)" と説明している。

My first **BBA** (born before arrival) is an important milestone for me. -*Nee Naw*, p. 26

These occasions were usually treated as emergencies but there were also less urgent events when the baby was already born (known

as **BBA**—born before arrival)

-*Catching Babies*, p. 185

2) ITU

*ICU*の略語で知られる「集中治療室」(*intensive care unit*)は、*ITU*とも呼ばれる。*intensive therapy unit*の略語である。⁶⁾ *Mosby's UK*は収録するが *Mosby's*には収録されていないことからわかるように、主に英国で使われるものと考えられる。*intensive treatment unit*の略語でもある(White 2010)。英国BBCの医療ドラマ *Bodies* の原作に登場する。

Rich arranges for him to be transferred to **ITU**. He says, 'It used to be called the *Intensive Care Unit*, till they realized no one did.' -*Bodies*, p. 19

3) PGY

米国の場合、医学部卒業後に専門医学実習 (*residency*) を行う研修医のことを *resident* と呼ぶが、卒業後何年目かを表す場合に *PGY* (*post graduate year*) が使われる場合がある。例えば卒業後2年目の研修医であれば *PGY2* となる(山田・田中 2016)。

この *PGY* は「ピギー」と読むことが次の例文からわかる。

"If I had a low IQ, I could be a **P-G-Y** too."
P-G-Y is pronounced "piggy" and stands for Post Graduate Year. -*More Letters from the Pit*, p. 10

4. 冠名用語 (eponym)

1) Pinard fetal stethoscope

胎児の心音を聴くために使われる胎児用聴診器に *Pinard fetoscope* がある。フランスの産科医 Adolphe Pinard (1884-1934) の名前から (Bartolucci and Forbis 2005)。 *Pinard fetal stethoscope* とも呼ばれる (Bock 2007)。 Marcucci (2002) には収録されていない。

I carried a black holdall containing a **Pinard's** [*sic.*] **stethoscope**, a sphygmomanometer and stethoscope for taking blood pressure.

-*Handle with Care*, p. 55

2) Spencer Wells forceps

手術の際に止血に使われる動脈鉗子 (artery forceps)。英国の外科医 Sir Thomas Spencer Wells (1818-1897) の名前から (Bartolucci and Forbis 2005)。 *Spencer-Wells arterial forceps* とも呼ばれる。 Marcucci (2002) には収録されていない。

This included a soft baby blanket, a sterile sheet to deliver the baby onto, two **Spencer wells** [*sic.*] (metal cord clamp), two plastic cord clamps, episiotomy scissors

-*The Secret Midwife*, p. 31

5. ブランド名

1) CaviCide

米国 Metrex Research, LLC (1985年創業) 製の消毒薬 (disinfectant) の液体スプレー。ウェットティッシュの *Cavi Wipes* もある。⁷⁾

Nathan leaned on the doorframe. The air smelled of **CaviCide** disinfectant and stale Chinese food. -*Crossing the Line*, pp. 12-13

2) Goody's

米国 Prestige Consumer Healthcare, Inc. 製の鎮痛薬 (pain reliever)。市販薬でパウダー (powder) が有名だが、 *shot* と呼ばれるドリンク剤もある。⁸⁾

So, I put the wrench and went into the house for a **Goody** [*sic.*] Powder for the pain.

-*Life in the Balance*, pp. 130-131

3) Hibiscrub

スウェーデンを本拠地とする Mölnlycke Health Care AB (1894年創業) 製の抗菌スキンクレンザー

(antimicrobial skin cleanser)。感染管理のため、手術前の外科医の手指消毒、手術前後の患者の皮膚消毒などに使われる。主に英国向けのブランド。⁹⁾ 同社製の主に米国向けのブランド *Hibiclens* は山田・田中 (2016) にすでに収録した。英国BBCの医療ドラマ *Bodies* の原作に登場する。

I wash my hands in a pink gob of Hibiscrub and dry them on paper towels and pad past the beds of motionless bodies. *-Bodies*, p. 171

4) Resuscitaire

ドイツ Dräger AG & Co. KGaA (1889年創業) 製の新生児の体温調節に使われる新生児保育器 (neonatal warmer) のブランドである。¹⁰⁾

Check the **Resuscitaire**: flick on the overhead lamp, placing a bundle of soft blankets and towels beneath it to warm. *-Hard Pushed*, p. 34

6. 医療ドラマのタイトル

かつて医療ドラマ *ER* が大ヒットしたとき、米国の雑誌 *Newsweek* (Oct. 31, 1994) は、このドラマを “S*M*A*S*H Hit” (大成功) と表現して特集を組んだが、“Smash” の部分をあえて “S*M*A*S*H” としたのは、人気反戦コメディ *M*A*S*H* を意識したものである (山田・田中 2016)。また、人気医療ドラマ *Marcus Welby, M. D.* を下敷きにした *Marcus Welby syndrome* という表現も生まれた (田中 2020a)。医療ドラマのタイトルと米国の文化や社会との間に密接なつながりあることを示している例である。

1) *Code Black*

米国CBS系の医療ドラマである。2015年から2018年まで放映された。実在の Los Angeles County Hospital をモデルにした架空の病院 Angels Memorial Hospital のERが舞台。¹¹⁾ *Code Black* とは病院内で使われる暗号表現で、爆発物が仕掛けられたことを知らせる場合に使われることがある (山

田・田中 2016)。ただし、このドラマでは、医療スタッフが対応しきれないほどたくさんの患者でERが溢れていることを知らせる暗号表現として使われている。¹²⁾

She said that the ER was so busy that they were on ER saturation, like that show *Code Black*. *-Memoirs of a Trauma Junkie*, p. 163

2) *Holby City*

英国BBCで1986年放映開始の医療ドラマ *Casualty* は田中 (2018) で取り上げた。*casualty* とは、イギリス英語で病院の救急部門 (casualty department) を意味する語。このドラマのスピノフドラマとして1999年に放映が開始されたのが *Holby City* である。両者ともその舞台は架空の病院 Holby City Hospital である。^{13), 14)} 次の場面では、米国の医療ドラマ *ER* とともに登場する。

Is it the one that is currently depicted on various channels in series like *Casualty*, *ER* and *Holby City*, of a well-groomed, well-spoken, hardworking, compassionate, dashing and handsome individual (usually a man!)?

-Under the Knife, p. 63

7. スラング

1) T-sign

患者の容体が悪いことを表す医療スラングに、患者の口の形や舌の様子を使った *O-sign* や *Q-sign* があった (山田・田中 2016)。次の場面では、すでに亡くなった患者の様子を表す *T-sign* が出てくる。*T* は “the number of undrunk cups of tea” の “tea” の頭文字。医療スタッフが、患者が亡くなったことを知らずに、決められた時間にその患者のベッドサイドにお茶を運び続けているというブラックユーモアである。

There was the ‘**O-sign**’: the mouth was open and round, which meant that they were alive,

just. Then the ‘Q-sign’, when the mouth was open and the tongue was hanging to one side. They were dead. And then the ‘T-sign’, which was the number of undrunk cups of tea sitting beside the bed, which was indicative of how long they had been dead. This woman has an O-sign, which is not good, but obviously better than a Q.

-*Hospital Babylon*, p. 75.

2) prison wallet

膣 (vagina) を指すスラングに *va-jay-jay* がある。米国の人気医療ドラマ *Grey’s Anatomy* の登場人物のセリフが起源であった (山田・田中 2016)。

次の場面では、女性患者がドラッグを隠すのにその *va-jay-jay* を使うとある。男性の場合は、*prison wallet* と呼ぶ部分にドラッグや武器などを隠すことがある。直腸 (rectum) とか肛門 (anus) を指すスラングである。特に刑務所で使われる表現。¹⁵⁾

Apparently, one of Tomi’s patients chose to use her “**Va-Jay-Jay**” [*sic.*] (the professional term for vagina popularized by TV show *Grey’s Anatomy*) to store drugs The men also have a convenient body cavity used to hide things, like drugs or weapons, called a **Prison Wallet** [*sic.*].

-*More Confessions of a Trauma Junkie*, p. 19

3) Vit M

薬品のブランド名を指すスラングに *Vitamin* とそのブランド名の頭文字を組み合わせた表現があった。例えば、*Vitamin M* は非ステロイド系抗炎症薬の *Motrin* を指す (山田・田中 2016)。

次の例文から、この *Vitamin M* または *Vit M* が麻薬性鎮痛薬 (analgesic) の一般名 *morphine* を指す場合があることがわかる。

I write ‘**Vit M**’ down on his file—**Vitamin M**, or *morphine*—and go to find Ian to try and work out my chances of getting Mr Lundy scanned here and now.

-*Hospital Babylon*, p. 313

8. マラプロピズム (malapropism)

ある語を発音のよく似た語と間違えて使用することをマラプロピズムと呼ぶ。医療分野でもよく見られるもので、“medical malapropism” と呼ばれる。

1) Donnatal と Domatol

利尿薬 (diuretic) の *Lasix* を *Latex*, 麻薬性鎮痛薬の *OxyContin* を *Oxy-cotton*, 鎮痛薬 (analgesic)・解熱薬 (antipyretic) の *Tylenol* を *Tie in all* と言い間違えるように、薬品名の場合によく間違いが起こる (Wanner 2009)。

次の場面では、抗コリン作用薬 (anticholinergic)・抗痙攣薬 (antispasmodic) の *Donnatal* を *Domatol* と言い間違えている。

“No. They give me some stuff for that. **Domatol** or somethin’ like that.” **Donnatal**, Marcie notes. They prescribe that to calm an irritable colon.

-*Harvard Med*, p. 241

2) genital と gentle

解剖学や生理学の分野の語にも間違いが起こる。*cervix* (子宮頸; 頸部) を *service*, *appendix* (虫垂) を *independix*, *vagina* (膣) を *Virginia* と間違えるという (Wanner 2009)。

次の例では、*genital* (生殖器の) を *gentle* と言い間違えている。

“Some tearing of the **gentle** tissues.”

The phrase jelled in my brains. *Some tearing of the **gentle** tissues*. Androfski meant “**genital**,” of courses; he misspoke.

-*First Cut*, p. 26

9. Epilog

米国のベストセラー作家 Sandra Brown の作品に、負傷者を病院へ搬送する方法について提案する場面が出てくる。舞台は米国 Louisiana 州 New Orleans である。

After a beat, she turned her head away from

the window and toward Joe. “Maybe he should be taken by **CareFlight** to a major hospital in New Orleans.”
-*Sting*, p. 226

ひと呼吸置いて、ジョーディは窓に向いていた顔をワイリーに向けた。「彼ですけど、ドクターヘリでニューオーリンズの大病院へ運んだほうがいいんじゃないかしら」
-林訳, p. 286

原文に登場する *CareFlight* が実在のものか架空のものかははっきりしないが、*air ambulance* と呼ばれる医療用ヘリコプターによる救急搬送を行う組織であることはわかる。邦訳に問題がある。「ドクターヘリ」とあるが、米国の医療用ヘリコプターが日本のドクターヘリと同じではないことに注意しなければならない。日本のドクターヘリにはドクターとフライトナースが搭乗するが、米国の医療用ヘリコプターにドクターは搭乗しないからである(小濱2003, 小濱・杉山・西川2007)。

注

本稿で引用した例文中の太字と邦訳中の太字はすべて田中による。

- 1) <https://www.laudis.co.uk/developing-a-sales-culture> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 2) <https://www.betterteam.com/ct-technologist-job-description> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 3) <https://www.healthcareers.nhs.uk/explore-roles/ambulance-service-team/roles-ambulance-service/emergency-medical-dispatchercall-handler> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 4) <https://www.jobhero.com/job-description/examples/medical/er-tech> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 5) <https://www.jobhero.com/career-guides/careers/planning/how-to-become-er-tech> (最終アクセス日：2020年9月9日)

- 6) <https://www.chelwest.nhs.uk/services/support-services/intensive-care-unit-icu/glossary-of-terms> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 7) <https://www.metrex.com/en-eu/products/disinfectants> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 8) <https://www.goodyspowder.com/> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 9) <https://www.molnlycke.co.uk/products-solutions/hibiscrub/> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 10) https://www.draeger.com/en-us_us/Hospital/Products/Thermoregulation-and-Jaundice-Management/Neonatal-Open-Care/Resuscitaire (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 11) <https://www.bustle.com/articles/116244-angels-memorial-hospital-on-code-black-grey-sloan-memorial-from-greys-anatomy-dont-share-many> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 12) <https://www.cbs.com/shows/code-black/> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 13) <https://www.bbc.co.uk/programmes/b006mhd6> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 14) <https://www.mandy.com/uk/tv-shows/holby-city> (最終アクセス日：2020年9月9日)
- 15) <https://www.urbandictionary.com/define.php?term=Prison%20wallet> (最終アクセス日：2020年9月9日)

Texts ([] 内は本稿で使用した略記)

- Anonymous, *The Secret Midwife: Life, Death and the Truth about Birth*. John Blake Publishing, 2020. [*The Secret Midwife*]
- Armistead, Caitlyn, *Crossing the Line*. Flashover Press, 2016. [*Crossing the Line*]
- Brent, Suzi, *Nee Naw: Real-Life Dispatchers from Ambulance Control*. Penguin Books, 2010. [*Nee*

- Naw]
- Brown, Sandra, *Sting*. Grand Central Publishing, 2017. (林 啓恵 訳, 『壊された夜に』集英社, 2017) [*Sting*]
- Byrom, Sheena, *Catching Babies: The True Story of a Dedicated Midwife*. Headline, 2011. [*Catching Babies*]
- Crocker, Patrick J., *More Letters from the Pit: Stories from a Physician's Odyssey in Emergency Medicine*. Independently Published, 2020. [*More Letters from the Pit*]
- Edwards-Jones, Imogen, *Hospital Babylon*. Corgi, 2011. [*Hospital Babylon*]
- Gerritsen, Tess, *The Sinner*. Ballantine Books, 2004. (安原和見 訳, 『聖なる罪びと』文藝春秋, 2007) [*The Sinner*]
- Goldman, Mini, *Memoirs of a Trauma Junkie*. Page Publishing, Inc., 2018. [*Memoirs of a Trauma Junkie*]
- Hazard, Leah, *Hard Pushed: A Midwife's Story*. Hutchinson, 2019. [*Hard Pushed*]
- Hearson, Rachael, *Handle with Care: Personal and Professional Memoir*. Mirror Books, 2020. [*Handle with Care*]
- Hoffman, Jilliane, *All The Little Pieces*. Harper, 2015. (多田桃子 訳, 『わたしの小さなかけらをすべて』オークラ出版, 2016) [*All The Little Pieces*]
- Jones, Sherry Lynn, *Confessions of a Trauma Junkie: My Life as a Nurse Paramedic*. 2nd edition. Modern History Press, 2017. [*Confessions of a Trauma Junkie*]
- Mayo, Sherry Jones, *More Confessions of a Trauma Junkie*. Modern History Press. 2012. [*More Confessions of a Trauma Junkie*]
- Mendez III, Hedley Norman, *Life in the Balance: Lessons Learned in the ER*. Simply Francis Publishing Company, 2018. [*Life in the Balance*]
- Mercurio, Jed, *Bodies*. Vintage, 2019. [*Bodies*]
- Mufti, Gulzar, *Under the Knife: Surgical Stories from Around the World*. The Book Guild Ltd, 2016. [*Under the Knife*]
- Langone, John, *Harvard Med: The Story Behind America's Premier Medical School and the Making of America's Doctors*. Adams Media Corporation, 1995. (白根美保子訳『ハーバード医学部』三修社, 2000) [*Harvard Med*]
- Robinson, Leah Ruth, *First Cut*. Avon, 1997, (清水ふみ訳, 『研修医エヴリンと夏の殺人鬼』東京創元社, 2005. [*First Cut*]
- 参考文献** ([]内は本稿で使用した略記)
- Mosby's Dictionary of Medicine, Nursing & Health Professions*. UK edition. 2010; Edinburgh: Elsevier Limited. [*Mosby's UK*]
- Mosby's Dictionary of Medicine, Nursing & Health Professions*. 10th edition. 2017; S. Louis, Missouri: Elsevier, Inc. [*Mosby's*]
- Dictionary of Occupational Titles*. 4th edition. 2 vols. Washington, D. C.: U.S. Department of Labor Employment and Training Administration. 1991. [*DOT*]
- Bartolucci, Su and Pat Forbis (2005), *Stedman's Medical Eponyms*. 2nd edition. Baltimore, Maryland: Lippincott Williams & Wilkins.
- Bock, Jeanne (2007), *Stedman's Medical & Surgical Equipment Words*. 5th edition. Baltimore, Maryland: Wolters Kluwer Health / Lippincott Williams & Wilkins.
- Cowan, James and Lois Cowan (1998), *Lights & Sirens: A Writer's Guide to Emergency Rescue Professions*. Cincinnati, Ohio: Writer's Digest Books.
- Cross, Mary (2002), *A Century of American Icons: 100 Products and Slogans from the 20th-Century Consumer Culture*. Westport, Connecticut: Greenwood Press.
- Drake, Ellen and Randy Drake (2012), *Saunders*

- Pharmaceutical Word Book 2012*. St. Louis, Missouri: Elsevier, Inc.
- Green, Jonathon (1987), *Dictionary of Jargon*. London and New York: Routledge & Kegan Paul.
- _____ (2010), *Green's Dictionary of Slang*. 3 vols. London: Chambers.
- Marcucci, Lisa, (2002), *Marcucci's Handbook of Medical Eponyms*. Baltimore, Maryland: Lippincott Williams & Wilkins. (羽白清 訳, (2003), 『医学冠名用語辞典』東京:朝倉書店)
- Sanders, Mick J. (2012), *Mosby's Paramedic Textbook*. 4th edition. St. Louis, Missouri: Mosby, Inc.
- Segen, Joseph C.(1995), *Current Med Talk: A Dictionary of Medical Terms, Slang & Jargon*. Stamford, Connecticut: Appleton & Lange.
- _____ (2006), *Concise Dictionary of Modern Medicine*. New York, New York: McGraw-Hill.
- Stahl, Dean and Karen Kerchelich (2001), *Abbreviations Dictionary*. 10th edition. Boca Raton, Florida: CRC Press.
- Wanner, Greg(2009), *Layman's Terms: The Humorous Guide to Medical Misinterpretation*. Bloomington, Indiana: iUniverse, Inc.
- White, Tony(2010), *NHS Jargon Explained*. Oxford: Radcliffe Publishing.
- 小濱啓次 (2003), 『ドクターヘリ 救急医療とヘリコプター: 実現への道・運用の実際・航空医学』へるす出版.
- 小濱啓次・杉山 貢・西川 渉 (2007), 『ドクターヘリ 導入と運用のガイドブック』メディカルサイエンス社.
- 田中芳文 (2017a), 「翻訳の解剖—英語ブランド名の言語と文化を探る」『人間と文化』第1号, pp. 191-197.
- _____ (2017b), 「現代アメリカ英語の諸相: 医療現場の英語表現を探る」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第12号, pp. 33-44.
- _____ (2017c), 「現代アメリカ英語の諸相: 医療現場の英語表現を解明する」『英語の言語と文化研究』第29号, pp. 1-17.
- _____ (2018), 「医療現場の英語表現と背景文化を探る」『英語の言語と文化研究』第31号, pp. 207-221.
- _____ (2019a), 「英語医療語の言語と文化を探る」『島根県立大学松江キャンパス研究紀要』第58号, pp. 97-102.
- _____ (2019b), 「オーストラリア英語における医療語—『ことばと文化』を探る」『日本医学看護学教育学会誌』第28号, No. 2, pp. 41-47.
- _____ (2020a), 「英語医療語の言語と文化を解明する」『島根県立大学松江キャンパス研究紀要』第59号, pp. 101-108.
- _____ (2020b), 「医療現場の英語表現—『ことばと文化』を探る」『日本医学看護学教育学会誌』第28号, No. 3, pp. 47-54.
- _____ (2020c), 「イギリス英語における医療語—医療スラングの『ことばと文化』を探る」『日本医学看護学教育学会誌』第29号, No. 2, pp. 31-34.
- 山田政美 (2006), 『英語の言語と文化研究—実践編—』英語の言語と文化研究会.
- 山田政美・田中芳文 (2000), 『英和メディカル用語辞典』講談社インターナショナル.
- _____・_____ (2006), 『医療英語がおもしろい—最新Medspeakの世界—』医歯薬出版.
- _____・_____ (2011), 『英和ブランド名辞典』研究社.
- _____・_____ (2015), 『英和ブランド名辞典』新補遺版. 英語の言語と文化研究会.
- _____・_____ (2016), 『医療現場の英語辞典』三省堂.
- (受稿 2020年9月30日, 受理 2020年11月4日)